

アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀

第二回特別展

アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀

アイヌ文化にみる

猫と漁

平成四年二月八日(土)から三月十五日(日)



アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀

アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀
 アイヌ文化 共箱 山刀

九時三十分から十六時三十分まで
 休館日 月曜日、二月十二日(水)
 特別展観覧料 かつこ内は十人以上の団体の場合
 一般 一五〇円(二〇〇円)
 高校生、大学生 八〇円(一五〇円)
 小学生、中学生 五〇円(一三〇円)

北海道立北方民族博物館
 Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093 北海道網走市字潮見313-1
 ☎0152-45-3888

アイヌ民族は北海道をはじめサハリン、千島に暮らし、漁猟や採集によって生活していました。今回の特別展では、とくに北海道アイヌの生業活動のなかの狩猟と漁撈について、さまざまな民族資料や考古資料、アイヌ風俗絵などをおして紹介します。

開催に当たって、つぎの機関にご協力いただきました。

網走市立郷土博物館、小清水町教育委員会、財団法人アイヌ民族博物館、財団法人北海道埋蔵文化財センター、市立函館博物館、函館市北方民族資料・石川啄木資料館（五十音順）

狩

アイヌの人々にとっては、おもに初冬から春先にかけてが山猟の季節で、シカやクマのほかキツネ、タヌキ、ウサギといった小動物を追った。銃が普及する明治期以前は、手持ちの弓や仕掛け弓、あるいは罠が狩猟具の主力であった。

沿岸では、北方の海に棲み、北海道の近海に季節的に現れるオットセイ、アザラシや回遊しているクジラなどを捕らえていた人々もいた。板綴り舟で沖に出て、キテとよばれる鉾で獲物をしとめた。

捕った獲物は食糧ばかりではなく、角や骨は生活に必要な様々な道具の素材として、また皮などは衣類としてばかりではなく、交易品として重要な位置を占めていた。



小刀
財団法人アイヌ民族博物館蔵



弓、矢、矢筒
財団法人アイヌ民族博物館蔵



アイヌ熊狩の図(平沢屏山) 市立函館博物館蔵

漁

初夏から初冬にかけて、産卵期に川をのぼってくるサケ・マスは、シカとともに北海道に暮らしアイヌの人々の重要な食糧源だった。川岸や川の中に台を設けて、そこから鉤鉾やヤスで突いたり、鉤で引っ掛けたり、川を木柵でせき止めたりして捕った。来たるべき冬に備えて、干したり燻製にしたりして貯えられた。

太平洋沿岸の沖では、メカジキ、マンボウといった大型魚類の捕獲が行われ、海獣猟と同じように、鉾が使われた。



鉾先
財団法人アイヌ民族博物館蔵
市立函館博物館蔵



鉤鉾
財団法人アイヌ民族博物館蔵